

## 旧字体に慣れる

前回の続きです。(c)は最初の **去** が「吉」? 「去」? という感じですが、次の **ル** が「ル」なので、「去ル」です。なお、**ル** を「候」と読んだ方もいると思いますが、「候」なら行の真ん中に書くはずで、少し右にずれて小さい字で書いてありますから、これは平仮名だという判断もできます。その次の **事** は「亅」だということと、筆がどのように動いているかを観察できると「安」に見える



と思います。次の **永** は「水」のような字の上に **ノ** が付いていますから、「永」。「安永」(1770年代頃)という元号です。次の **又** は、もう得意になってきたかもしれませんが、「五」。次の次にある **年** は「年」ですから、その前の字は干支で「申」です。ここでは関係ありませんが、もしどちらかが虫食いなどで読めなかった場合は、インターネットなどで元号と干支の対照表などを検索できますから、調べてわかったり、自信がなかった字に確信が持てたりすることもあります。

(d)は最初の **当** が、第12回で **當** と出てきた「當(当)」です。今回の方がむしろ読みやすいかもしれません。次の **組** は、偏の **纟** が「糸」、**斗** が「且」か「旦」という感じなので、「組」。次の **合** は、迷うことなく「合」なので、「当組合」となります。

次の **出** は頻出の字です。これは「出」という字ですので、ここで覚えてください。書き順をどう、というより、こういう形は「出」と覚えた方がラクです。**會** も旧字体で難しい。「會」という字を知っていれば、少しはわかりやすいかもしれませんが、これは「會(会)」という字です。次の

**之** は「之」。最後の **上** は少し間延びしていますが、「上」です。「しゅつかいのうえ 出會之上」となります。

